

鹿屋寺子屋指導者との「“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	鹿屋寺子屋指導者
日時	令和3年11月18日（木）18時30分から20時00分まで
場所	庁議室
参加者	岩山益男、川崎大輔、松元武子、中村トヨ子、川井田優子
	市長、稲村教育次長、鬼塚生涯学習課長、日高中央公民館長、和田中央公民館次長、芝主幹（政策）

【参加者の意見・要望等】

○鹿屋寺子屋の運営等に関する現状と課題について

- ・子供たちは、学習の間の休み時間を楽しみにしている。
- ・保護者の反応は良く、日数を増やしてほしいと言われる保護者もいる。
- ・以前はクラスの子供しか友達がいなかったが、寺子屋に参加するようになり、異年齢の友達が出来て友達の輪が広がっているようである。
- ・寿北ランラン塾は、指導者以外にも民生委員・児童委員の方にも協力をもらっている。
- ・集中力を継続させるために、色々なことを模索している。
- ・運動会時期になると子供たちも疲れており、集中力が切れたころに飴をあげると喜び、また頑張るようになる。
- ・頑張った子供にシールをあげると喜ぶ。
- ・宿題より休み時間の遊びを楽しみに寺子屋に来る子供もいる。
- ・寺子屋は、15時から18時であるが、低学年は17時には帰る。
- ・高学年になると、寺子屋に来る時間が17時頃なり、1時間ほどしかいないため、来なくなる。
- ・低学年は、14時30分頃には寺子屋に来て、宿題が1時間で終わってしまい時間を持て余している。
- ・寺子屋をリナシティで実施しているが、部屋が狭いので学校でできればありがたい。
- ・東原小学校では、図書室で行っており、子供が増える傾向にあるので、指導者の確保が心配である。
- ・輝北は参加者が少ない（14人）のでもう少し寺子屋について PR してもらいたい。
- ・輝北に退職校長会の方がいないので、鹿屋から指導者に来てもらいたい。
- ・指導者同士の意見交換会をしてもらえると、悩みや接し方など相談できると思う。
- ・寺子屋の継続率は、だいたい50%ほどで、低学年は親より子供が理由で辞めることが多いようである。
- ・スポーツ少年団等に力がはいつてくると、辞めてしまう。
- ・宿題が終わった子供のため、追加でやるドリルや教材等があればありがたい。

- ・マスコミに取材をしてもらえれば、もっと寺子屋をPRできると思う。
- ・鹿屋でのん塾は、今年は応募が多くて抽選になり、断るのが心苦しかった。
- ・情緒不安定だった子供も慣れて、今は寺子屋に通うのを楽しみにしている。
- ・地域の方々との交流活動・地域体験活動ができていないことが課題である。
- ・地域活動に飛び込むということはない。
- ・体験活動は寺子屋によって、差があるようで、地域に密着しているところは、餅つき大会、陶芸、田植えなどを行っている。
- ・異年齢で交流することは大事だと思う。

#### 【市長】

- ・寺子屋事業は塾とは異なり、勉強を教えるのではなく、自主学習を主として学習習慣を定着させるための見守りと、地域との交流や歴史文化を知ることなので、各寺子屋に特色があることは、とても良いことだと思う。
- ・寺子屋は指導者だけでなく、地域全体で育てることは重要なことで、地域の民生委員、PTA、町内会と連携をすることで円滑な運営につながる。
- ・今、共稼ぎ家庭や仕事終わり迎えに来るのは6時ぐらいになると思うが、時間も3時から6時の固定でなく、臨機応変に行ってもらえれば良いと思う。
- ・寺子屋を継続していくには、指導者の確保が大事だと思う。
- ・休憩時間に遊ぶ場所がないことについては、リナのような街中は、便利なようで意外に不便なところもある。小学校でできるのがよいように思える。
- ・学校でやっている寺子屋は、図書室も校庭もあり環境は良いと思う。
- ・低学年は、1時間もすれば宿題は終わってしまうだろう。低学年は、遊びながら学ばせることが大事である。
- ・地域には、〇〇名人がいらっしゃるはずだから活用したらよい。
- ・低学年は、体力作りや友達作りが大事である。
- ・必要な教材等については、アンケート等を取り、今後検討し対応していく。
- ・今回、初めて指導者の方から貴重なご意見を伺い、今後の寺子屋事業の参考にさせていただくことや指導者同士の悩みや意見を聞かれて横のつながりが出来たいい機会になったと思う。地域性や違いがあってもよい。
- ・これからも皆さんにご意見を伺いながら、今後も継続可能な寺子屋事業ができるようにしていきたい。
- ・運営（教材、連絡体制、場所、広報）についても、地域全体で育てる、チームでやるのが大切。